

3月定例活動・雑木林塾(第6回)

第9回萌木祭り & 雑木林の味わい方



本年度のくらぶ主催行事である雑木林塾も最終回ということで、これまで里山管理を進めるうえで必要とされる各種知識・技能を学んできた集大成として、やはり「食の愉しみ」を忘れるわけにはいきません。

当日は、当くらぶ会員でもある白石公二氏を講師に招き、災害時、サバイバルにも役に立つ、相生山の竹を使った釜飯づくりをメインに雑木林を十分

に愉しむノウハウを学習しました。



▲講師の白石さん

白石さんの説明を受け、まずは材料の準備です。相生口周辺で繁茂した竹の除伐を行い、竹釜飯に必要な竹材を用意します。直径15cm、長さ50cmくらいで節が2つある竹を用意します。2箇所斜めに切り込みを入れて小槌でなたをたたくと、面白いように竹のお釜ができます。割りとした竹も蓋として使うので、このやり方がいいのです。

食材は、お米(無洗米)に釜飯の素、相生山で採りたいたけも登場です。このほかにも竹玉子焼きや、白飯も試しました。材料を入れ、針金で蓋を固定しいよいよ炊飯です。もちろん燃料は相生山の竹炭です。切り取ったばかり

りのモウソウの生竹は水分を含みかつ適度な厚みがあり、炭で焼いても燃え出すわけでもなく、中のご飯が炊けるのです。普段アウトドアでは飯ごう炊さんが当たり前ですが、この竹釜飯はとて風情があり、面白く子どもにも受けること確実です。



▲竹釜と竹炭を使った自然の風味漂う調理風景

少し雨が降り始めて皆の気分が落ち込みそうになったときに、これもおなじみ蛭川さんのオカリナ演奏があり、最後に白石講師の「皆さんは愉しみながらこれで非常時にも対応できるノウハウを確実に身につけた。」との講評をいただき、有意義な一日を終えることができました。(大館 学)

5月定例活動

ウッドデッキの更新 & サツマイモ畑づくり



5月の定例会は、小屋横のウッドデッキの更新作業と、トンボ池の脇でのサツマイモ畑づくりを行いました。

ウッドデッキは3年前、アルミ地金のスパーサとして使われたカナダ産メープルを貰い受け、くらぶの仲間が手作りしたものです。設置した当初は、

定例会の昼休み時などに利用して重宝したのですが、最近はきのこが生えるなど腐りが激しくなっていました。

今回新たに貰い受けたメープルを使って、木部の交換を行う作業でしたが、朝からの参加者が少なく、野浪さんの道具が頼りの作業になりました。

作業の手始めはデッキの解体なのですが、古いデッキ材はムカデなど虫たちの格好の棲家となっており、見るからに気持ち悪い状態と闘いながら、何とか全てのデッキ材を片付けました。



▲黒くなるまで焼いた土台の上に新しいデッキ材を据え付ける

今回は前回の反省から、土台の木を表面が黒くなるまで焼いた上で防腐材(キ

シラデコール)を塗布し、デッキ材は全面に防腐剤を塗布しました。

3時過ぎには大方の作業が終わりでしたが、最後のデッキ材据え受けが一部残り、その後有志の方で作業を続け、夕方には完了させることができました。

一方、トンボ池東側では、女性陣が中心となって、大館さんが予め耕しておいてくれた5畝の畑にサツマイモの苗を植え付けました。



▲苗の植え付けが完了したサツマイモ畑

参加した皆さんには、暑い中の重労働本当にお疲れ様でした。

(村田 英二)